

現地学生との交流と文化体験活動について

皆様、新年あけましておめでとうございます。高橋あすみです。太原での生活が5ヶ月目に入るタイミングで、2026年に突入しました。今年も山西省と中国の文化や生活について更に理解が深まるようレポートや様々な場での活動に引き続き尽力いたします。本年もどうぞよろしくお願いします。

さて、12月と言えばクリスマスや年越しなど年末年始のイベントが盛りだくさんの時期ですが、中国は旧暦の新年にあたる旧正月(今年は2月17日)が本番ですので、街全体にはそれらのイベントを祝うような雰囲気は見られません。一応年末年始の連休は設定されているのですが、学期終わりということでも学生たちは皆年始一発目の期末試験のため勉強に明け暮れる毎日を過ごしました。逆に現在1月上旬時点では、春節を含む長期休暇が始まったばかりで、日本の休暇とはタイミングが少しずれています。街全体にイベントを祝う雰囲気はないと記しましたが、やはり私を含め母国でそれらのイベントを祝うことが習慣になっている留学生たちにとっては特別な祝日です。皆あまり数の多くないイルミネーションスポットやクリスマス限定のメニューのあるレストランを探したり、大きなパーティーを自身で開催したりしていました。私もクリスマスは大型のショッピングモールに設置された巨大なツリーを見に行きました。また、年越しの瞬間は寮の友人の部屋で一緒にインドネシアの料理やお菓子を食べ、小さなパーティーを開きました。中国の大学生は必ずと言っていいほど学生寮に入寮し、4人前後で一部屋で暮らすので、基本的に常に友達と生活を共にしています。寮には門限があり夜間の外出は禁止されているので、こういった様々な夜間のイベントも必ず友達と過ごすことができるのはとても新鮮に感じます。

また、12月中旬には山西大学の日本語学科の先生が声をかけてくださり、日本語を専攻に学ぶ学生たちの授業に参加し、彼らと交流する機会がありました。彼らは日本語で私に日本の文化や生活などについて質問し、私は中国語で答えるという言語交流が中心で、現地の学生がどのように日本語を学んでいるのかという現状も知ることができました。特に言語を交換した上での交流は、同世代の中国人学生とお互いの言語学習をネイティブとして助け合う経験となり、たくさんの刺激とモチベーションを得られました。日本について紹介した際には、私の住んでいた地域として埼玉県の地理や生活について主に話しました。山西省と友好都市であることや山西省との類似点や相違点などについても紹介しましたが、学生たちは皆興味を示しても真剣に話を聞いてくれたのが

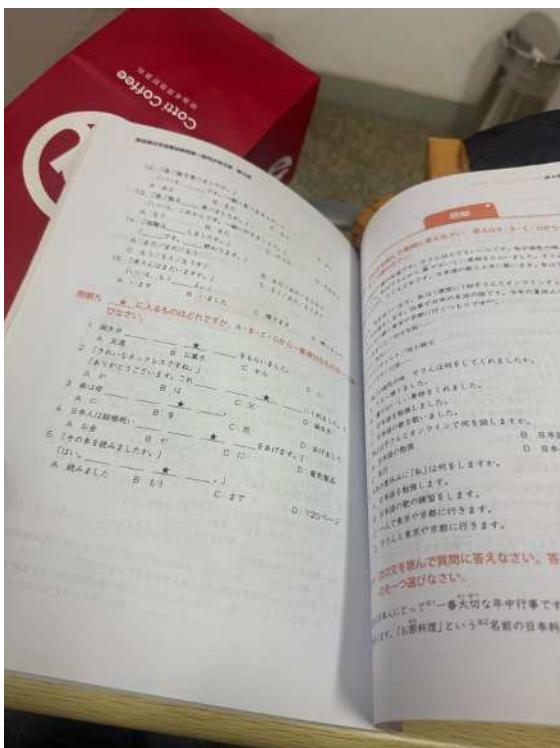
とても嬉しく、印象的でした。埼玉県の紹介については、中国語の授業でもクラスメイトたちに向けて発表する機会があり、秩父や川越、都市部と自然の共存など、スライドを作って埼玉県の魅力について中国語で説明することができました。このように、12月は様々な機会に恵まれ、多角的に埼玉県の魅力を伝えることができた月だったと感じております。

最後に、不定期に開催される中国語授業以外の中国文化を体験する活動についても紹介しようと思います。まず、数ヶ月前から一週間に一回の頻度で書道の授業が始まりました。授業は中国の有名な成語を先生のお手本を参考にしながら実際に自分で筆を取って書いてみるというもので、私にとっては小学校以来の書道の授業でとても懐かしい気持ちになりました。他の国から来た書道を体験したことがない学生達にとっては、とても興味深く更に新鮮なものであったと思います。その他には中国の伝統工芸技法である立体的な金彩技法を体験する「沥金画书(lì jīn huà shù)」という活動や、冬至の日に餃子を食べるという中国の風習に合わせ、みんなで餃子を包んで食べるという中国の文化や習慣を実際に使う活動も実施され、希望する留学生は自由に申し込み参加することができます。文化は学習するだけでなく、せっかく現地に住んでいるからこそその中に身を投じることでより歴史や深みを肌で感じることができるのだと、これらの活動を通して強く感じました。

今回も最後までお読みいただき、誠にありがとうございます！来月は長期休みの最中なので学業や学校生活について詳細に紹介することは難しいかもしれません、色々な場所に出かける予定があるので中国や山西省の交通についても紹介しようと思います。それではまた来月のレポートでお会いしましょう！



年越しの様子。寮全体が賑やかで、大晦日～6日間ほどは外で頻繁に花火や爆竹の音が響いていました。



実際に日本語学科の学生達が使っている教科書を見せてもらいました。授業では私が日本語を教え、その後 WeChat でもお互いに言語学習を助け合う関係が続いています。



餃子を包む文化体験。中国で冬至に餃子を吃るのは、寒さを防ぎ健康を祈るための文化だそうです(諸説あります)。